

最終更新日：2022年2月6日

WBPXベルトパックX



Green-GO WBPXベルトパックXは、フルカラーの有機ELディスプレイにより、最大32の高品質で低遅延のチャンネルに直接アクセスでき、チャンネルの名前、音量レベル、ステータスを表示します。4つの関連する押しボタンで、選択された機能に応じて、各チャンネルのスクリーン機能である、トーク、リッスン、または、コールを操作することができます。2つのロータリーマルチファンクションエンコーダーをベルトパックの左右に対称に配置し、左利きのユーザーにも右利きのユーザーにも対応しています。デバイスのボタンおよびディスプレイ機能を設定し、最大4チャンネルまでダイレクトにアクセスできるほか、拡張メニューでさらに多くのチャンネルにアクセスすることが可能です。

オーディオはXLR4Mヘッドセットコネクタから出力され（ハンドセットは含まれない）、1800mAhのリチウムイオンバッテリーパックNRGPから電力が供給されます。充電は、内蔵のmini-B USB 2.0ポートまたはBC6バッテリーチャージャーから行うことができます。

BPXベルトパックXシリーズとほとんどの機能を共有し、有線と無線デバイスの切り替えを簡単に行うことができます。より大きなボタンとより高いウェザープロテクションが必要な場合は、有線および無線タイプのスポーツバージョンがあります。

ボックスの内容

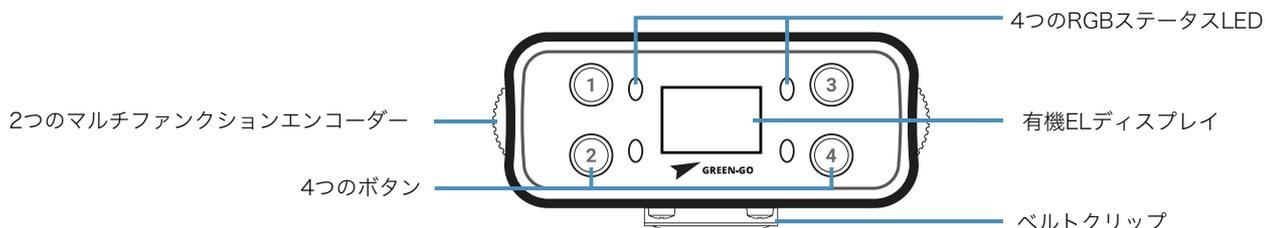
Green-GO WBPXワイヤレスベルトパックXには、以下のパッケージ内容が付属しています：

- 1 x Green-GO WBPXワイヤレスベルトパックX
- 1 x Green-GO NRGPリチウムイオンバッテリーパック（1800 mAh）
- 1 x ユニバーサルUSB電源（CEE7/16、NEMA-1、BS-1363、AS-3112）
- 1 x 印刷されたクイックスタートガイド

オプションのGreen-GOアクセサリ

- Green-GO HS200S片耳およびHS200D両耳ヘッドセットGreen-GO
- NRGPリチウムイオンバッテリーパック（1800 mAh） Green-GO
- BC6バッテリーチャージャー
- Green-GO PoEネットワークスイッチ

デバイスの概要 フロントパネル



2つのマルチファンクションエンコーダー

エンコーダー左とエンコーダー右は、回転とクリックが可能です。エンコーダーの主な用途は、音量調整、セットアップメニューの操作などです。

4つのボタン

4つのボタンは、主にチャンネルを操作するために使用されます。ボタンの機能は、設定状況によって異なる場合があります。

4つのボタン

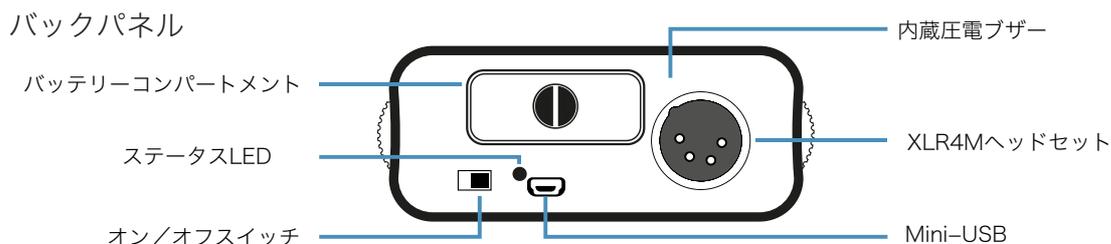
デバイスまたはチャンネルのステータスは、4つの強力なRGB LEDで表示されます。

1つの有機ELディスプレイ

高コントラストのカラー有機ELディスプレイは、チャンネルおよびデバイスの情報をはっきりとコンパクトに表示します。

1つのベルトクリップ

頑丈なスプリングスチール製のベルトクリップで、ベルトまたは衣服に固定できます。



1つのバッテリーコンパートメント(収納部)

バッテリーコンパートメントには、Green-GO NRGPRリチウムイオンバッテリーパックが収納されています。バッテリーは、ノブを回して直立させることで固定されます。

1つのステータスLED

ステータスLEDは、バッテリーの充電状態に関する情報を提供します。緑色のLEDは、バッテリーが完全に充電されていることを示します。

1つのオン/オフスイッチ

オン/オフスイッチは、主にデバイスの電源をオンまたはオフにするために使用されます。設定されている場合、オン/オフスイッチは、アンテナの切り替え（ローミング）を手動でトリガーするために使用することができます。

1つの内蔵圧電ブザー

内蔵圧電ブザーは、アラートコールまたはキュー信号などの着信アラーム信号を送信することができます。

1つのNeutrik XLR4-オス型ヘッドセットコネクタ

XLR4オス型コネクタに任意のヘッドセットを接続することが可能です。内蔵アンプは32Ωから600Ωまでのインピーダンスに対応しています。

1つのMini-USB

Mini-USBコネクタは、充電、プログラム、または、アップデートなどに使用できます。

ユーザーインターフェース

ワイヤレスWBPXベルトパックXのユーザーインターフェースは設定を変更することができ、最大4チャンネルまで直接アクセスして制御することができます。

4つのボタンとステータスLEDにより、デバイスの設定に応じて複数の機能に簡単にアクセスすることができます。デバイスの両側にある2つのマルチファンクションエンコーダーにより、メニューの操作および様々な機能の制御が可能です。

🔍 ヒント：このデバイスをGreen-GOシステムで使用方法の詳細については、クイックスタートガイドを確認してください。ワイヤレスベルトパックとGreen-GO WAAワイヤレスアンテナの接続方法については、ワイヤレスXシステムガイドをご覧ください。

デバイスの電源のオン/オフ

デバイスの電源を入れる前に、バッテリーがコンパートメントに固定されていることを確認してください：バッテリーのラッチが垂直になっていることを確認してください。

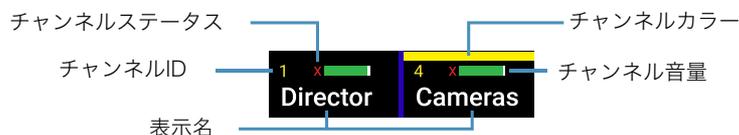
Green-GO WBPX無線ベルトパックXの電源を入れるためには、本体底面にあるオン/オフスイッチを引っ張る必要があります。



デバイスの電源オフは、オン/オフスイッチを押しながら **ボタン4** を押し、常に必ず確認する必要があります。ユーザーが電源オフを確認しない場合、デバイスはシャットダウンされません。

チャンネルディスプレイおよびステータス

カラー有機ELディスプレイには、ユーザーのチャンネルおよび通信状態などの情報が表示される。



チャンネルステータス

赤色の X は、Green-GOエンジンが設定されたチャネルターゲットに対して、どのリモートデバイスにも到達できないことを示します。

チャンネルID

チャンネルのIDを表示する。通常、ユーザーはチャンネル1から32にアクセス可能です。

表示名

チャンネルターゲットの名前または表示名です（ユーザーまたはグループ）。

チャンネルカラー

チャンネルカラーはチャンネルターゲットによって定義されます（ユーザーまたはグループ）。

チャンネル音量

現在のチャンネル音量レベルです。

チャンネルのステータスカラー

工場出荷時の設定では、ステータスLEDは以下のようにチャンネルのステータスを表示します：

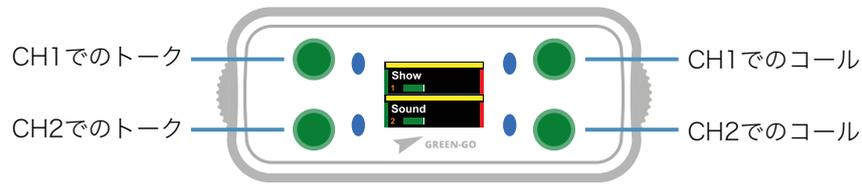
色	状態	ステータス	説明
■	点灯	フリー	このチャンネルには通信ターゲットがアサインされていません。
■	点灯	メンバーなし	このチャンネルではリモートデバイスまたはユーザーはいません。
■	点灯	アイドル	チャンネルがアサインされ、アイドル状態です。
■	点灯	アクティブ	リモートユーザーまたはデバイスがチャンネルトークを有効にしたが、オーディオを送信していません。
●	点灯	アクティブVOX	チャンネルがVOX通信を受信しています。
●	点滅	アクティブミュート	チャンネルはミュートされているが、VOX通信を受信しています。
■	点灯	トーク	チャンネルは手動で開かれ、アクティブな入力からオーディオが送信されます。
■	点灯	オートトーク	チャンネルは自動で開かれ、アクティブな入力からオーディオが送信されます。
■	点灯	コール	チャンネルはショートコール信号を受信しました。
■	点滅	アラートコール	チャンネルはアラートコール信号を受信または送信しています。
●	点滅	キューアテンション	チャンネルはキューアテンション信号を受信または送信しています。
■	点灯	キューGO	チャンネルはキューGO信号を受信または送信しています。
■	点灯	DPIOコントロール	チャンネルはGPIOコントロール信号を送信しています。

UIモード

Green-GO WBPXワイヤレスベルトパックXのユーザーインターフェースは設定可能であり、最大4チャンネルまで直接アクセスしてコントロールすることができます。

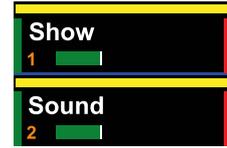
設定に応じて、**■ ボタン** およびステータスLEDの表示構成および機能が変化します：

2チャンネルUI

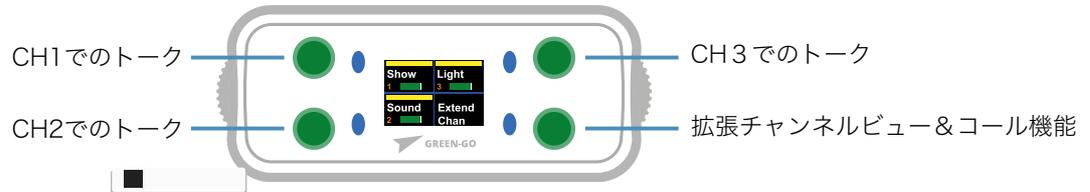


2チャンネルモードでは、ユーザーの最初の2チャンネルに快適にアクセスすることができます。

各チャンネルの横にある2つのボタンは、トークまたはコール機能を有効にします。各ボタンの横にあるステータスLEDは、それぞれのチャンネルの状態を表示します。



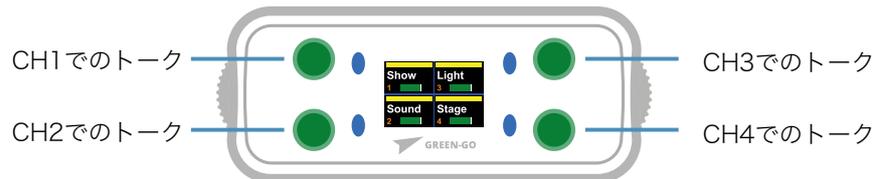
3チャンネルUI



3チャンネルモードは、最も汎用性の高いモードです。ユーザーの最初の3チャンネルの●トーク機能に直接アクセスすることができます。

ボタン4には2つの機能があります。これは主に、拡張チャンネルビューに直接アクセスできるようにするものです。しかし、3つのチャンネルのいずれかの●トーク機能がアクティブになると、その機能は●コール機能に変わります。これにより、ユーザーは現在アクティブなチャンネルに直接コール信号サインを送信することができます。

4チャンネルUI



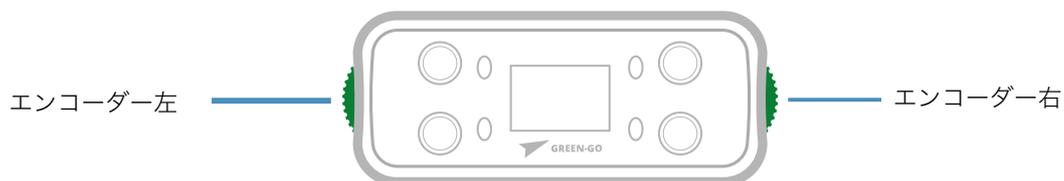
4チャンネルモードでは、ユーザーの最初の4チャンネルに直接アクセスすることができます。各ボタンは、各チャンネルの●トーク機能にリンクしています。

コール機能などその他の機能は、拡張チャンネルビューで利用可能です。



エンコーダーのアサイン

エンコーダー左およびエンコーダー右は、回転およびクリック（ディスプレイ側に引っ張る）が可能です。これらの操作は、音量およびメニューのコントロール、音声通信への応答、または、スクリーンの切り替えに使用されます。

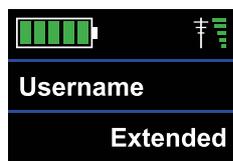
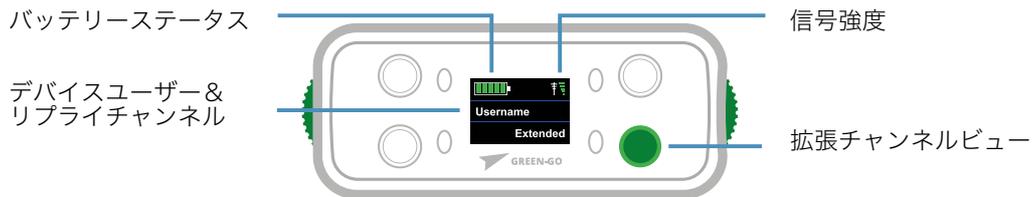


クリックは常に、受信した音声通信に回答する、または、選択または機能を確認するために使用される。両方のエンコーダーの回転動作は、デバイスセットアップメニューで設定可能です。

- **メイン音量**：回転させ、デバイスのメインレベルを制御します。
- **プログラムオーディオ**：回転させ、プログラムオーディオチャンネルの音量をコントロールします。
- **サイドトーン**：回転させ、サイドトーンの音量をコントロールします。

デバイスのデフォルト設定では、**エンコーダー** の両回転がデバイスのメインレベルをコントロールします。

ステータススクリーン



ステータス画面では、**ボタン4** を押すと、主に下段の拡張チャンネル表示にアクセスすることができます。中段には、デバイスのユーザーが表示されます。

上段には、現在のバッテリーステータスおよび信号強度など、デバイスの重要な情報が表示されます。

エンコーダー左 または **エンコーダー右** (ディスプレイ側に引っ張る) をクリックすると、ステータススクリーンを呼び出すことができます。

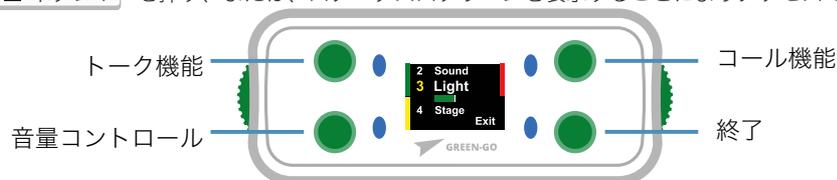
エンコーダー をホールドしながら **ボタン4** を押すと、拡張チャンネルビューアにアクセスできます。



スクリーン中央のステータス情報には、そのデバイスのユーザーが表示されます。ただし、いずれかのチャンネルで音声通信を受信中 (音声通信に応答) にユーザーがステータス画面を表示した場合、スクリーン中央のステータスセクションにアクティブになったチャンネルが表示されません。

拡張チャンネルビュー

拡張チャンネルビューでは、32チャンネル全てをコントロールすることが可能です。拡張チャンネルビューには、3チャンネルUIモードで **ボタン4** を押す、または、ステータススクリーンを表示することによりアクセスできます。



4つの **ボタン** は、カラーインジケータに応じて機能を調整します：

- **ボタン1** は、トーク機能を有効にする。
- **ボタン2** は、いずれかの **エンコーダー** と合わせてチャンネルの音量コントロールができます。
- **ボタン3** は、コール機能を有効にします。
- **ボタン4** は、拡張チャンネルビューを終了します。

いずれかの **エンコーダー** を回転させると、チャンネルリストがスクロールします。ディスプレイの中央に表示されているチャンネルが、現在選択されているチャンネルです。これは、チャンネル名の下に音量、および、色分けされたチャンネル番号によって表示されます。

拡張チャンネルビューでは、一度に制御できるチャンネルは1つのみです。ただし、複数のチャンネルでトーク機能を有効にすることは可能です。



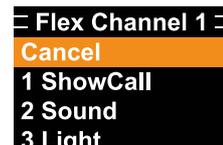
拡張チャンネルビューで設定されたチャンネル状態は、終了時にクリアされます。

チャンネルのFlexlist

Flexlistは、Green-GO5から導入された新しいUIコンセプトです。

この機能により、ユーザーはチャンネルの通信先をあらかじめ定義された20セットの宛先（ユーザーおよびグループ）に素早く変更することができます。これにより、制限があるまたは詰め込み型のユーザーインターフェースのデバイス（このベルトパックなど）において、より多くのチャンネルを快適かつ簡単にコントロールすることができます。

Flexlistの項目は、デバイスのユーザー設定セットアップメニューで直接、または、ソフトウェアの補助により追加および設定することができます。



Flexlistは、チャンネルのチャンネルモードをFlexに設定することで、チャンネル単位で有効となります。複数のチャンネルでこの設定を行うことにより、同じFlexlistに独立してアクセスすることができます。

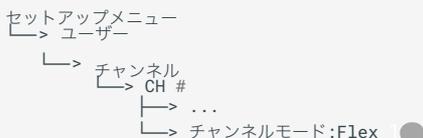
セットアップメニューガイド

デバイスのFlexlistの設定



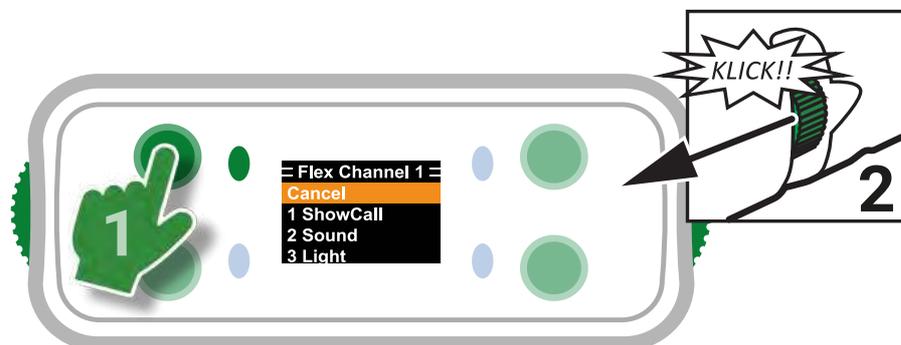
1. この設定により、デバイスのFlexlistを設定することができます。
2. Flexlistには最大20個の項目を追加できます。既存の項目を削除するには、その項目を選択し、Noneオプションを選択します。

チャンネルのモードをFlexに設定



Flexlist は、チャンネルのモードが Flex に設定されると同時に利用可能になります。

チャンネルの宛先の変更



Flexlistによるチャンネルの宛先の変更は、片手でのボタンの組み合わせで行います：

1. そのチャンネルの **ボタン** を押し、トーク機能を有効にする

2. **エンコーダー左** または **エンコーダー右** のいずれかをディスプレイに向かってクリックします。

これにより、Flexlistの選択メニューが表示されます。リストはエンコーダーでスクロールすることができます。**エンコーダー** をクリックする、または、**ボタン1** を押し、新しいチャンネル宛先が選択される。

警告: チャンネルモード:Flexでチャンネルをミュートする場合はご注意ください。フレックスは、直接ミュートすることはできません。これらのチャンネルのミュートは、拡張チャンネルビューからのみ行うことが可能です。

ベルトパックのペアリング

Green-GO WBPXワイヤレスベルトパックXは、Green-GO WAAワイヤレスアンテナにDECTで接続します。DECT仕様に基づき、両方の接続パートナーは互いに認証する必要があります。このプロセスは一般的にペアリングと呼ばれます。

Green-GO 5では、ワイヤレスDECTペアリングの設定が見直されました。アドホックワイヤレスペアリングおよびX-Pool接続が明確に区別されています。これらのペアリングは、それぞれが最大4つのワイヤレスベルトパックを含むプールで行われます。

1つのGreen-GOシステムで異なるタイプのプールを複数持つことは可能です。ただし、すべてのプールは同じDECT周波数空間を共有します。そのため、接続可能な数は限られており、ローカル環境に影響されます。

ヒント: 現地で可能な見積もり方法に関するガイダンスをご確認ください。

アドホックover-the-air(OTA)プールは、デバイス本体のみで設定および管理されます。つまり、ソフトウェアからデバイスを追加または削除することはできません。また、このモードを使用しているローミングはサポートされていません。

X-Poolの接続は、ベルトパックをUSBでGreen-GOコントロールソフトウェアに接続して設定し、最大7つのアンテナ間でローミングできるのが特徴です。

注意: このデバイスのマニュアルは、アドホックOTAペアリングのみを対象としています。X-Poolのペアリングの詳細については、ワイヤレス接続に関するガイドをご覧ください。

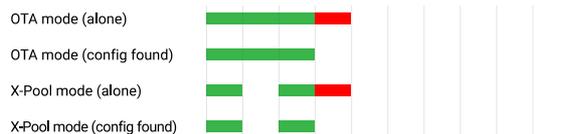
デバイスの準備

ペアリングの設定を始める前に、**すべての**関連デバイスのDECTモジュールをクリアすることが推奨されます。モジュールをクリアすることにより、既存のペアリングがすべて削除され、アクティブな接続がすべてリセットされます。

アンテナのDECTモジュールのリセット

以下の手順で、WAAアンテナのDECTモジュールをクリアします：

- 電源を入れると、WAAワイヤレスアンテナは、ステータスLEDで現在の状態を表示します。このとき、以下のシーケンスに続き、ローカルネットワークに設定メンバーが存在しないことを示す、赤色の短い点滅が続くことがあります。



2. デバイスの底面にある **■ ボタン** を約2秒間押す。ステータスLEDが緑色に素早く点滅し、ゆっくりとした赤色の点滅に切り替わり、ペアリングモードが有効であることを示します。



3. ボタンを約10秒間押し続け、DECTモジュールのリセットを開始します。クリアプロセスを開始する間、ステータスLEDは中程度の頻度で赤色に点滅します。プロセスが初期化されると、ステータスLEDは、短い緑色の点滅に続く非常に長い赤色の点滅にパターンを変更します。



4. **■ ボタン** を離す。

5. リセットが完了するまで約20秒かかります。リセットが終了した後、ステータスLEDのパターンはOTAステータスに戻ります。

ベルトパックのDECTモジュールのリセット

WBPXまたはWBPXSPワイヤレスベルトパックのDECTモジュールは、DECTセットアップメニューでクリアすることができます。このプロセスを開始すると、「Program Wireless」というメッセージのポップアップが表示されます。メッセージが消えると、処理は完了します。

■ セットアップメニューガイド

```
セットアップメニュー
├─> DECT
│   └─> 情報
│       └─> RFのクリア
│           └─> リセットする
```

OTAペアリングの設定

デバイスのペアリングは順番に行われるため、一度にペアリングできるデバイスは1台のみです。

Ⓧ お知らせ：OTAペアリング方式では、単一のペアリングを削除または上書きすることはできません。アンテナのペアリングを解除する唯一の方法は、そのDECTモジュールをリセットすることで、接続されているすべてのデバイスを切断し、すべてのペアリングを解除します。

アンテナでペアリングモードを有効にする

ワイヤレスデバイスをペアリングする前に、Green-GO WAAワイヤレスアンテナでペアリングモードを有効にする必要があります。このためには、**■ ボタン** を約2秒間押します。ステータスLEDが緑色に素早く5回点滅し、ゆっくりとした赤色の点滅に変わり、ペアリングモードが有効であることを示します。



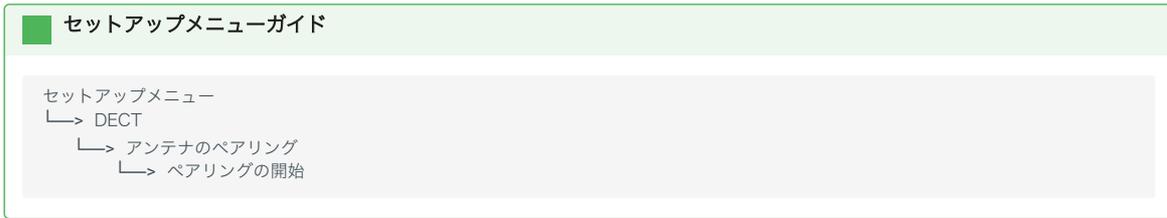
ペアリングモードが有効な場合、現在設定されているスロットIDをステータスLEDが緑色に点滅して表示します。



4つの空きスロットがすべて占有されている、または、X-Poolモードに設定されているアンテナは、ペアリングモードに入ることを拒否し、赤／緑の中程度の交互点滅することにより、そのことを示します。

ベルトパックのペアリング

次に、DECTセットアップメニューに移動し、ワイヤレスベルトパックのペアリングを開始することができます。ここで、アンテナのペアリングを選択してペアリングを開始できます。この項目がない場合、ベルトパックはすでにアンテナに接続されています。この場合は、DECTモジュールをリセットする必要があります。
ベルトパックのポップアップでペアリングのステータスが通知されます。



バッテリーの充電

Mini-USBコネクタにユニバーサルUSBパワーサプライを接続し、NRGPリチウムイオンバッテリーパックを充電することができます。あるいは、Green-GO BC6バッテリーチャージャーを使用すると、最大6個のバッテリーパックを一度に充電することが可能です。
また、ベルトパックに外部5V USB電源パックを接続することにより、バッテリーの寿命を延ばすことも可能です。

セットアップメニュー

セットアップメニューでは、ほぼすべてのユーザーおよびデバイスの設定プロパティにローカルでアクセスすることができます。セットアップメニューでのすべての変更は、デバイス上でローカルに行われ保存されますが、Green-GOコントロールソフトウェアを使用して簡単に設定ファイルに同期させることができます。また、これらの設定は上書きされない限り、デバイス上で永続的に保持されます。

ワイヤレスWBPXベルトパックXは、セットアップメニューにアクセスする方法が2通りあります：



セットアップメニューの移動は、主にエンコーダー左またはエンコーダー右の回転およびクリックによって行われます。

- エンコーダーの回転により選択部分を移動または選択した値を変更します。
- エンコーダーまたはボタン1をクリックすることにより、サブメニューに入り、値を変更することができます。
- サブメニューの終了は、メニュー項目の「終了」または「キャンセル」、あるいはボタン2をクリックすることで行うことができます。

セットアップメニューへのアクセスは、Green-GOコントロールソフトウェアで設定ファイルまたはユーザーのセキュリティオプションを設定することにより制限できます。例えば、セキュリティ設定に応じて、ユーザーは、サブメニューにアクセスする前にTech Pincodeの入力を要求される場合があります。

🔧 セットアップメニューガイド

セットアップメニュー

- ユーザー
 - ユーザー選択
 - チャンネル
 - ↳ #チャンネルID
 - アサイン
 - リッスンオーバーライド
 - リッスン
 - レベル
 - Talkモード
 - プライオリティ
 - Listenモード
 - Callモード
 - キューモード
 - チャンネルモード
 - 特殊チャンネル
 - ↳ ダイレクト
 - ↳ プログラムオーディオ
 - ↳ アナウンス
 - ↳ 緊急時
 - Flexlist
 - ↳ ...
 - ↳ 追加
 - 設定
 - ↳ アクティブタイム
 - ↳ リブライモード
 - ↳ アイソレート
 - ↳ トーンレベル
 - ↳ アラートトーン
 - ↳ ルーム
 - ↳ ルームディム
 - ↳ ルーム出力
 - ↳ プライオリティディム
 - ↳ ポップアップ
 - ↳ キュータイムアウト
 - ↳ スクリプト
- オーディオ
 - ↳ サイドトーン
 - ↳ コンプレッサー
 - ↳ ゲート閾値
 - ↳ ゲートホールド
 - ↳ ソース
 - ↳ ヘッドセットバイアス
 - ↳ アウトプットリミッター
 - ↳ メインレベル
- デバイス
 - ↳ UIモード
 - ↳ エンコーダー左
 - ↳ エンコーダー右
 - ↳ 拡張
 - ↳ プザー
 - ↳ フリップ
 - ↳ LEDの輝度
 - ↳ LEDタイムアウト
 - ↳ スクリーンタイムアウト
- 設定
 - ↳ ジョイン設定
 - ↳ デフォルト設定
 - ↳ 工場出荷時設定
- DECT
 - ↳ モード
 - ↳ アンテナのペアリング
 - ↳ コーデック
 - ↳ 情報
 - ↳ 強制再接続
- 情報
 - ↳ 名前
 - ↳ 設定
 - ↳ ファームウェア
 - ↳ シリアル
 - ↳ アップタイム
 - ↳ デフォルトのリセット

ユーザー

ユーザーサブメニューには、次のようなユーザーに関する設定項目があります：

- デバイスにリンクされているユーザー
- チャンネル設定
- 4つの特殊チャンネルの設定
- ユーザーのFlexlist
- 一般的なユーザー設定（カラー、通信設定など）
- スクリプト管理

ユーザー選択

利用可能なユーザー

このメニューは、アクティブな設定ファイルの利用可能なすべてのユーザーを一覧表示します。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ ユーザー選択
◀ **オプションの範囲：** 設定ファイルにより定義
○ **デフォルト：** 未設定

チャンネル

チャンネル 1-32

32の各チャンネルにつき、以下が利用可能です。

アサイン

このメニューでは、チャンネルの通信ターゲットを選択することができます。このメニューに入ると、アクティブな設定ファイルの利用可能なグループとユーザーに簡単にアクセスできるプレフィルタが表示されます。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ アサイン
◀ **オプションの範囲：** なし、グループ、ユーザー
○ **デフォルト：** 未設定

リッスンオーバーライド

このオプションでは、チャンネルに別のリッスンソースを定義することができます。ユーザーはアサインされたプライマリターゲットと話しますが、ここで定義されたグループを聞くことができます。主な使用事例は、可能なフィードバックをプライベートに維持しながら、複数の受信者にコマンド通信を行うことが可能です（1人のフォロースポット発信者、複数のフォロースポットオペレーター）。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ リッスンオーバーライド
◀ **オプションの範囲：** なし、グループ
○ **デフォルト：** 未設定

リッスン

設定されたチャンネルレベルとは別に、チャンネルを有効またはミュートにすることができます。設定されたチャンネルレベルを失うことなく、チャンネルのリッスン状態を簡単にオンまたはオフに切り替えることができます。

このオプションは、Listenモードに影響される場合があります。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ リッスン
◀ **オプションの範囲：** ミュート、オン
○ **デフォルト：** オン

レベル

このオプションは、チャンネルの出力レベルを定義します。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ レベル
◀> **オプションの範囲：** -40 dBから+12 dB (1 dB刻み)
○ **デフォルト：** 0 dB

Talkモード

Talkモードは、トークボタンを使ってチャンネルをvox通信用にアクティブ●にする方法を定義します。

モード	説明
Disabled (無効)	このオプションは、そのチャンネルのトーク機能を無効にします。
Momentary (モーメンタリ)	このオプションにより、プッシュ・トゥ・トークのスタイルで操作できます。
Latch (ラッチ)	このオプションは、トグルとして機能します：1回目に押すと通話が可能になり、2回目に押すとトークが無効になります。
Latch/Mom (ラッチ/モーメンタリ)	このオプションにより、混合的な操作が可能となります短く押すとラッチトグルとして機能し、長く押すとモーメンタリコミュニケーションが可能となります。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ トークモード
◀> **オプションの範囲：** 無効、モーメンタリ、ラッチ、ラッチ/モーメンタリ
○ **デフォルト：** ラッチ/モーメンタリ

プライオリティ

チャンネルには、3つのプライオリティを設定することができます。例えば、プライオリティの高いチャンネルが送信した場合、プライオリティの低い通信を減衰させることができます（プライオリティディム）。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ プライオリティ
◀> **オプションの範囲：** 低、中、高
○ **デフォルト：** 中

Listenモード

リッスン状態は、ミュートまたはミュート解除されたチャンネルを定義する。Listenモードオプションは、チャンネルのリッスン状態を切り替えるかどうか、また切り替える方法を定義します。

モード	説明
Listen On Talk (リッスン・オン・トーク)	このモードは、チャンネルで●トークがアクティブになるとすぐに、チャンネルのリッスン状態を有効にします（ミュート解除）。チャンネルでトークを無効にすると、再びリッスン状態を無効にします（ミュート）。
No Listen On Talk (リッスン・オン・トークなし)	アクティブなトークはチャンネルのリッスン状態に影響しないが、チャンネルはアイソレート機能を尊重します。
Ignore Isolate (アイソレート無視)	このモードではアイソレート機能を無視します。
Fixed (固定)	このモードではリッスン状態は変化しません。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ チャンネルID ▶ Listenモード
◀> **オプションの範囲：** リッスン・オン・トーク、リッスン・オン・トークなし、アイソレート無視、
○ **固定デフォルト：** リッスン・オン・トーク

CALLモード

このオプションは、チャンネルでコール信号を送信および／または受信できるかどうかを定義します。

モード	説明
Disabled (無効)	このオプションは、チャンネルのすべてのコール信号を無効にします。
Recv Only (受信のみ)	このチャンネルでコール信号の受信が可能です。
Send Only (送信のみ)	このチャンネルにコール信号の送信が可能です。
Send/Recv (送信／受信)	このモードでは、チャンネル上でコール信号の送受信が可能です。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー▶チャンネル▶ID ▶コールモード
◀> **オプションの範囲：** 無効、受信のみ、送信のみ、送信／受信
○ **デフォルト：** 送信／受信

Cue(キュー)モード

キューモードは、入力されたキュー信号をどのように処理するかを定義します。

モード	説明
Normal (通常)	このオプションにより、手動のredy reply(レディリプライ)の3段階のキュー信号が可能となります。
Auto Answer (自動応答)	このオプションは、このチャンネルに入力されたキュー信号に自動的に応答し、レディ・アンド・ゴーの有効段階を短縮します。
Ignore (無視)	このオプションは、入力されたキュー信号を無視します。送信されたキュー信号は、他の機器によって応答される場合があります。

✦ **セットアップメニュー：** ユーザー▶チャンネル▶ID ▶キューモード
◀> **オプションの範囲：** 通常、自動応答、無視
○ **デフォルト：** 通常

チャンネルモード

チャンネルモードは、複雑なチャンネル構成を可能にするシンプルな自動化を可能にします。自動リプライやGPIOコントロールなどはここで設定することができます。

モード	説明
Normal (通常)	これはデフォルトの設定です。音声通信を受信しても、チャンネルは何もしません。
No Reply (リプライなし)	このオプションは、そのチャンネルの応答／リプライ機能を無効にします。
Reply Direct (直接リプライ)	このオプションを設定すると、応答／リプライ機能は、グループの最後にアクティブになったメンバーに対してのみリプライします。
Auto Reply (自動リプライ)	このオプションは、音声通信を受信すると同時に、そのチャンネルのトーク機能を自動的に作動させます。
Autotalk (オートトーク)	このオプションは、有効な入力が入力されると同時に、チャンネルを自動的に開きます。
Solo Talk (ソロトーク)	このオプションは、チャンネル自体のトーク機能がアクティブに設定されている場合、自動的に他のチャンネルのトーク機能を無効にします。
Flex (フレックス)	このオプションは、ユーザーのFlexlistをチャンネル上で有効にし、チャンネルの宛先を素早く変更できるようにします。 Flexlistは、チャンネルボタンを押し、 ■エンコーダー左 または ■エンコーダー右 を引き上げることで呼び出すことができます。
GPIO Control (コントロール)	これは、チャンネル上で特殊GPIOコントロールデータパケットを送信し、チャンネルのためのトーク機能を無効にします。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ チャンネル ▶ ID ▶ チャンネルモード
◀ **オプションの範囲:** 通常、リプライなし、直接リプライ、自動リプライ、オートトーク、ソロトーク、フレックス、GPIOコントロール
○ **デフォルト:** 通常

Special Channels (スペシャルチャンネル)

各ユーザーには、通常の32チャンネルに加え、さらに4つのスペシャルチャンネルがあります。

- プライベート通信のため一時的な二重チャンネル
- パッシブプログラムオーディオチャンネル
- パッシブアナウンスチャンネル
- パッシブ緊急時チャンネル

ダイレクト

ダイレクトチャンネルは一時的であり、双方向に機能します。

32チャンネルのいずれにも設定されていないリモートユーザーが、このデバイスにリンクされているユーザーに接触（音声通信、コール信号、キュー信号）すると、すぐにこのチャンネルが作成されます。

レベル

このオプションは、チャンネルの出力レベルを定義します。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 特殊チャンネル ▶ ダイレクト ▶ レベル
◀ **オプションの範囲:** ミュート、-40 dBから+12 dB (1 dB刻み)
○ **デフォルト:** 0 dB

プライオリティ

チャンネルには3つのプライオリティを設定することができます。例えば、プライオリティの高いチャンネルが送信した場合、プライオリティの低い通信を減衰させることができます（プライオリティディム）。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 特殊チャンネル ▶ ダイレクト ▶ プライオリティ
◀ **オプションの範囲:** 低、中、高
○ **デフォルト:** 中

Cue(キュー)モード

キューモードは、入力されたキュー信号をどのように処理するかを定義します。

モード	説明
Normal (通常)	このオプションにより、マニュアルレディリプライの3段階のキュー信号が可能となります。
Auto Answer (自動応答)	このオプションは、このチャンネルに入力されたキュー信号に自動的に応答し、レディ・アンド・ゴーの有効段階を短縮します。
Ignore (無視)	このオプションは、入力されたキュー信号を無視します。送信されたキュー信号は、他の機器によって応答される場合があります。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 特殊チャンネル ▶ ダイレクト ▶ キューモード
◀ **オプションの範囲:** 通常、自動応答、無視
○ **デフォルト:** 通常

Program (プログラム)

プログラムオーディオのチャンネルはパッシブ（リッスンのみ）であり、ユーザーはこのチャンネルのオーディオしか受信できません。このチャンネルはグループを通してオーディオを受信し、独立した音量コントロールがあり、ユーザーが32の通常チャンネルでオーディオ信号を受信する際にディミングに対応します。

アサイン

このメニューでは、チャンネルの通信ターゲットを選択することができます。このメニューに入ると、アクティブな設定ファイルの利用可能なグループとユーザーに簡単にアクセスできるプレフィルタが表示されます。

✚ セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ プログラム ▶ アサイン
◀ オプションの範囲： なし、グループ
🔄 デフォルト： なし

レベル

このオプションは、チャンネルの出力レベルを定義します。

✚ セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ ダイレクト ▶ レベル
◀ オプションの範囲： ミュート、-40 dBから+12 dB（1 dB刻み）
🔄 デフォルト： 0 dB

Dim (ディム)

プログラムオーディオチャンネルは、他のチャンネルがアクティブになると同時に、自動的に減衰することができます。

✚ セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ プログラム ▶ ディム
◀ オプションの範囲： ミュート、-24 dBから-6 dB、オフ（6 dB刻み）
🔄 デフォルト： オフ

Announce (アナウンス)

アナウンスチャンネルは、通常のチャンネルよりも高いプライオリティで送信するパッシブチャンネル（リッスンのみ）です。このチャンネルにオーディオが入ると、プライオリティディムの設定に応じて、通常のチャンネルの通信を減衰させることができます。

アナウンスチャンネルは、グループを通してオーディオを受信します。このチャンネルにオーディオを送信するには、設定されたグループをユーザーの32の通常チャンネルのいずれかにアサインする必要があります。

⚠ **警告：**グループを介した通信は、進行中のユーザー通信を中断させる可能性があるため、アナウンスチャンネルのソースグループへのトークアクセスは慎重に設定してください。

アサイン

このメニューでは、チャンネルの通信ターゲットを選択することができます。このメニューに入ると、アクティブな設定ファイルの利用可能なグループとユーザーに簡単にアクセスできるプレフィルタが表示されます。

✚ セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ アナウンス ▶ アサイン
◀ オプションの範囲： なし、グループ
🔄 デフォルト： なし

レベル

このオプションは、チャンネルの出力レベルを定義します。

✚ セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ アナウンス ▶ レベル
◀ オプションの範囲： ミュート、-40 dBから+12 dB（1 dB刻み）
🔄 デフォルト： 0 dB

Emergency (エマージェンシー)

エマージェンシーチャンネルは、最優先で送信されるパッシブチャンネル（リッスンのみ）です。このチャンネルでオーディオを受信すると、32の通常チャンネルでの通信はすべてミュートされます。

エマージェンシーチャンネルは、グループを通してオーディオを受信します。このチャンネルにオーディオを送信するには、設定されたグループをユーザーの32の通常チャンネルのいずれかにアサインする必要があります。

△ 警告：グループを介した通信は進行中のユーザー通信を中断する可能性があるため、エマージェンシーチャンネルのソースグループへのトークアクセスは、慎重に設定してください。

アサイン

このメニューでは、チャンネルの通信ターゲットを選択することができる。このメニューに入ると、アクティブな設定ファイルの利用可能なグループとユーザーに簡単にアクセスできるプレフィルタが表示されます。

+セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ エマージェンシー ▶ アサイン
<>オプションの範囲： なし、グループ
○デフォルト： なし

レベル

このオプションは、チャンネルの出力レベルを定義します。

+セットアップメニュー： ユーザー ▶ スペシャルチャンネル ▶ エマージェンシー ▶ レベル
<>オプションの範囲： ミュート、-40 dBから+12 dB (1 dB刻み)
○デフォルト： 0 dB

Flexlist

このメニューでは、ユーザーのFlexlistをカスタマイズすることができます。

追加

メニューの一番下にある「追加」という入力で、最大20人のユーザーまたはグループを追加することができます。既存のアサインを選択すると、そのアサインを変更または削除することができます。

+セットアップメニュー： ユーザー ▶ 設定 ▶ Flexlist
<>オプションの範囲： 追加、Flexlist入力
○デフォルト： 未設定

設定

ユーザー設定では、グローバルな通信機能を設定します。これらの設定は全チャンネルの通信に影響し、チャンネル単位で調整することはできません。

Active time (アクティブ時間)

アクティブ時間は、最後の音声送信が受信された後、チャンネルを●アクティブに保つ遅延を定義します。この主な用途は、再び非アクティブになる前に、ユーザーに送信チャンネルを識別する機会を与えることです。

△ 警告：この設定は、応答状態をアクティブに設定することにより、応答/リプライなどGreen-GOエンジンの一部の機能に直接影響します

+セットアップメニュー： ユーザー ▶ 設定 ▶ アクティブ時間
<>オプションの範囲： 0.5秒、1秒、2秒、5秒、30秒、60秒、120秒
○デフォルト： 5秒

リプライモード

リプライモードは、応答／リプライ機能の動作を定義します。

モード	説明
Disabled (無効)	このオプションは、応答／リプライ機能を無効にします。
Active (アクティブ)	このオプションは、現在進行中のすべての音声通信に応答する応答／リプライ機能を有効にします。
Last (ラスト)	このオプションは、最後に受信した送信にのみ応答する応答／リプライ機能を有効にします。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ リプライモード
↔ **オプションの範囲：** 無効、アクティブ、ラスト
🕒 **デフォルト：** ラスト

Isolate (アイソレート)

この機能は、●アクティブトークが有効でないすべてのチャンネルをミュートします。どのチャンネルもトーク機能が有効でなくなると、すぐにチャンネルのミュートが解除されます。

この機能は、多忙なシステムで受信するオーディオをコントロールするのに役立ちます。受信するオーディオをアクティブなユーザー通信に限定することができます。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ アイソレート
↔ **オプションの範囲：** 無効、有効
🕒 **デフォルト：** 無効

トーンレベル

トーンレベルは、キュー信号やアラートコールなど、すべてのアラーム信号の音量を定義します。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ トーンレベル
↔ **オプションの範囲：** ミュート、-24 dBから0 dB (6 dB刻み)
🕒 **デフォルト：** -12 dB

アラートトーン

この設定は、アラートコールまたはキュー信号などのアラーム信号の種類を定義します。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ アラートトーン
↔ **オプションの範囲：** Fast、Slow、Pulse
🕒 **デフォルト：** Fast

ルーム

この設定は、設定ファイルから利用可能であり、ユーザーをルームにアサインします。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ ルーム
↔ **オプションの範囲：** なし、利用可能なルーム
🕒 **デフォルト：** 未設定

ルームディム

ルームディムオプションは、設定されたルームからのオーディオ信号を減衰させるかどうか、またどのように減衰させるかを設定します。この設定によって影響を受ける出力は、ルーム出力オプションで定義されます。

✚ **セットアップメニュー：** ユーザー ▶ 設定 ▶ ルームディム
↔ **オプションの範囲：** ミュート、-24dbから-6 dB (6 dB刻み)、オフ
🕒 **デフォルト：** オフ

ルーム出力

ルーム出力オプションは、設定されたルームからのオーディオ信号が減衰されるハードウェア出力を定義します。減衰自体はルームディムの設定によって設定されます。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 設定 ▶ ルーム出力
◀ **オプションの範囲:** 両方、1、2
🕒 **デフォルト:** 両方

プライオリティディム

プライオリティディムのプロパティは、プライオリティの高いチャンネルで音声伝送されているときに、プライオリティの低いチャンネルをどの程度減衰するかを定義します。32の一般的な各チャンネルは、それぞれ3つのプライオリティのうち1つを持つことができます。

この設定を有効にし、チャンネルのプライオリティを定義することで、通信量の多いユーザーステーションを管理に役立ちます。

⚠ **警告:** この設定は、スペシャルチャンネルであるエマージェンシーまたはプログラムオーディオの動作には影響を与えません。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 設定 ▶ プライオリティディム
◀ **オプションの範囲:** ミュート、-24 dBから-6 dB (6 dB刻み)、オフ
🕒 **デフォルト:** オフ

ポップアップ

この設定は、ユーザーにポップアップを表示するかどうか、またどのようなポップアップを表示するかを定義します。

モード	説明
System Only (システムのみ)	これは最低限必要なものです。設定への参加など、システムイベントのポップアップは常に表示されます。
Cue (キュー)	このオプションは、システム通知とキュー信号の着信をポップアップで表示します。
Cue + Direct (キュー+ダイレクト)	このオプションは、システムイベント、キュー信号、および、一時的な直接通信のための特殊チャンネルでの通信のポップアップを有効にします。
Cue/Direct/Extended (キュー/ダイレクト/拡張)	このオプションは、システムイベント、キュー信号、ダイレクトチャンネル通信、および、UIで直接利用できないチャンネル (非表示) の通信のポップアップを有効にします。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 設定 ▶ ポップアップ
◀ **オプションの範囲:** システムのみ、キュー、キュー+ダイレクト、キュー/ダイレクト/拡張
🕒 **デフォルト:** キュー/ダイレクト/拡張

キュータイムアウト

この設定は、GOキュー信号のホールド時間を定義します。

✦ **セットアップメニュー:** ユーザー ▶ 設定 ▶ キュータイムアウト
◀ **オプションの範囲:** 0.5秒、1秒、2秒、5秒、30秒、60秒、120秒
🕒 **デフォルト:** 5秒

スクリプト

ロードスクリプト

このメニューは、現在ロードされているスクリプトを表示し、設定に保存されている任意のスクリプトをロードすることができます。

利用可能なスクリプト

このサブメニューは、現在ロードされているスクリプトをクリックすることで利用でき、設定ファイルに保存されているすべてのスクリプトを一覧表示します。

✦ セットアップメニュー:	ユーザー ▶ スクリプト ▶ スクリプト名
◀ オプションの範囲:	利用可能なスクリプト
🕒 デフォルト:	未設定

ステータス

このプロパティは、現在ロードされているスクリプトの現在のステータスを示します。

オーディオ

オーディオサブメニューには、ユーザーのオーディオ入力と出力に関連するすべての設定が含まれます。Green-GOベルトパックでは、1つのオーディオプロファイルのみが利用可能です。オーディオプロファイルは、ユーザーのオーディオ入力および出力に関連するすべての設定を保存します。

サイドトーン

サイドトーンプロパティは、ヘッドセット出力にフィードバックされるユーザー入力の量を設定します。アクティブにすると、信号のフィードバックを防ぐために、サイドトーンがデバイスのフロントスピーカーにルーティングされることはありません。

✦ セットアップメニュー:	オーディオ ▶ サイドトーン
◀ オプションの範囲:	ミュート、-40 dBから0 dB (1 dB刻み)
🕒 デフォルト:	0 dB

ゲイン

入力ゲインは、入力信号の増幅率を設定します。この設定範囲は、選択された入力ソースに依存します。

✦ セットアップメニュー:	オーディオ ▶ ゲイン
◀ オプションの範囲:	ミュート、-40 dBから0 dB (1 dB刻み)
🕒 デフォルト:	0 dB

コンプレッサー

これは、この設定で有効になるシンプルなコンプレッサーです。入力信号の大きな音量部分を減衰させることでダイナミックレンジを狭め、歪んだオーディオを送信しにくくします。この設定を有効にすると、コンプレッサーのタイミングを調整することができます。

✦ セットアップメニュー:	オーディオ ▶ コンプレッサー
◀ オプションの範囲:	オフ、速い、中間、遅い
🕒 デフォルト:	中間

ゲートスレッシュホールド

ゲートスレッシュホールドオプションは、ノイズゲートがマイクを開くためのスレッシュホールド(閾値)を定義します。設定された閾値以下のオーディオ信号はカットされ、送信されません。

✦ セットアップメニュー:	オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ ゲートスレッシュホールド
◀ オプションの範囲:	-50 dBから-25 dB (5 dB刻み)、オフ
🕒 デフォルト:	-50 dB

ゲートホールド

ゲートホールドプロパティは、ノイズゲートが一度作動した後、再び閉じるまでの時間を定義します。

✦セットアップメニュー： オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ ゲートスレッシュホールド
◀オプションの範囲： 短い、中間、長い、とても長い
○デフォルト： 中間

ソース

ソースメニューでは、ユーザーの入力ソースとして、デバイスのオーディオ入力またはテストトーンを選択することができます。

✦セットアップメニュー： オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ ソース
◀オプションの範囲： ヘッドセット、375Hz、1kHz、1.2kHz、2.5kHz
○デフォルト： ヘッドセット

ヘッドセットバイアス

ヘッドセットバイアスオプションにより、XLR4コネクタに接続されたヘッドセットのエレクトレットマイクまたはコンデンサーマイクに最大2.5Vの電力を供給できます。

✦セットアップメニュー： オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ ヘッドセットバイアス
◀オプションの範囲： オフ、オン
○デフォルト： オフ

出力リミッター

出力リミッターオプションにより、ユーザーのオーディオ出力にシンプルなりミッターを設定することができます。このリミッターは、ユーザーのチャンネルミックスの最も大きな音量部分を減衰させ、信号のクリッピングを防止します。

✦セットアップメニュー： オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ 出力リミッター
◀オプションの範囲： -24 dBから-6 dB(6 dB刻み)、オフ
○デフォルト： -6 dB

メインレベル

メインレベルは、すべてのデバイス出力のマスターとして機能します。すべての出力レベルを同時に素早く下げたり上げたりすることが可能です。

✦セットアップメニュー： オーディオ ▶ オーディオプロファイル ▶ メインレベル
◀オプションの範囲： ミュート、-40 dBから+12 dB(1 dB刻み)
○デフォルト： 0 dB

デバイス

デバイスサブメニューは、デバイスに関連する設定を行います。

UIモード

設定「UIモード」は、ユーザーインターフェースのレイアウトをコントロールします。

モード	説明
2チャンネル	このモードでは、ユーザーの最初の2つのチャンネルで、●トークおよび●コール機能に直接アクセスすることができます。
3チャンネル	このモードでは、ユーザーの最初の3つのチャンネルが直接利用可能になり（●トーク）、拡張チャンネル表示または●コール機能に直接アクセスできるようになります。
4チャンネル	このモードでは、ユーザーの最初の4チャンネルの●トーク機能に直接アクセスすることができます。

🔍 ヒント：利用可能なUIモードと各ボタン割り当ての詳細については、こちらを参照してください。

✦ **セットアップメニュー：** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ UIモード
↳ **オプションの範囲：** 2チャンネル、3チャンネル、4チャンネル
○ **デフォルト：** 2チャンネル

エンコーダー左

この設定では、**■エンコーダー左**の回転の動作を設定できます。

動作	説明
Disabled (無効)	エンコーダーの回転は機能しません。
Main Volume (メイン音量)	エンコーダーの回転で機器のメイン音量をコントロールします。
Program (プログラム)	エンコーダーの回転でプログラムオーディオチャンネルの音量を調節します。
Sidetone (サイドトーン)	エンコーダーの回転でサイドトーンの音量を調節します。
Channel 1 - 4	エンコーダーの回転で特定のチャンネルの音量を調節します。

✦ **セットアップメニュー：** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ エンコーダー左
↳ **オプションの範囲：** 無効、メイン音量、プログラム、サイドトーン、チャンネル1、チャンネル2、チャンネル3、チャンネル4
○ **デフォルト：** メイン音量

エンコーダー右

この設定では、**■エンコーダー右**の回転の動作を設定できます。

動作	説明
Disabled (無効)	エンコーダーの回転は機能しません。
Main Volume (メイン音量)	エンコーダーの回転で機器のメイン音量をコントロールします。
Program (プログラム)	エンコーダーの回転でプログラムオーディオチャンネルの音量を調節します。
Sidetone (サイドトーン)	エンコーダーの回転でサイドトーンの音量を調節します。
Channel 1 - 4	エンコーダーの回転で特定のチャンネルの音量を調節します。

✦ **セットアップメニュー：** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ エンコーダー右
↳ **オプションの範囲：** 無効、メイン音量、プログラム、サイドトーン、チャンネル1、チャンネル2、チャンネル3、チャンネル4
○ **デフォルト：** メイン音量

拡張

拡張プロパティは、ユーザーが拡張チャンネルビューにアクセスできるかどうかを定義します。

✦ **セットアップメニュー:** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ UIモード
◀ **オプションの範囲:** 無効、有効
○ **デフォルト:** 有効

ブザー

ブザープロパティは、内蔵のピエゾスピーカーから、アラートコールまたはキュー信号のためのアラームトーンを送信するかどうかをコントロールします。

✦ **セットアップメニュー:** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ ブザー
◀ **オプションの範囲:** 無効、有効
○ **デフォルト:** 有効

フリップ

フリッププロパティは、カラー有機ELディスプレイの方向を定義します。

オプション	説明
No Flip (フリップなし)	ディスプレイは通常通りの方向に向けられます。
Main (メイン)	このオプションは、以下のスクリーンを180度フリップさせます： <ul style="list-style-type: none">• チャンネルを表示するメインスクリーン• ステータススクリーン• 拡張チャンネルビュー
Menu (メニュー)	このオプションは、セットアップメニューを180度フリップさせます。
Both (両方)	このオプションは、すべてのスクリーンを180度フリップさせます。

✦ **セットアップメニュー:** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ フリップ
◀ **オプションの範囲:** フリップなし、メイン、メニュー、両方
○ **デフォルト:** フリップなし

LEDの輝度 (Intensity)

LEDの輝度のオプションは、ステータスおよびボタンのバックライトの明るさをコントロールします。

✦ **セットアップメニュー:** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ LEDの輝度
◀ **オプションの範囲:** 最小、1から6 (1刻み)、最大
○ **デフォルト:** 4

LEDタイムアウト

LEDタイムアウトオプションは、デバイスのステータスおよびボタンのバックライトがスクリーンタイムアウトによってコントロールされるかどうかを定義します。

✦ **セットアップメニュー:** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ LEDタイムアウト
◀ **オプションの範囲:** 無効、有効
○ **デフォルト:** 無効

スクリーンタイムアウト

スクリーンタイムアウトオプションは、デバイスがアイドル状態のときに、すべてのディスプレイをオフにするタイマーを設定します。ユーザーによる操作または通信があると、タイマーが再開され、ディスプレイが再アクティブ化します。

✦ **セットアップメニュー：** デバイス ▶ デバイス設定 ▶ スクリーンタイムアウト
◀ **オプションの範囲：** 常時オン、1分、10分、1時間、10時間
🕒 **デフォルト：** 1時間

Config

Configサブメニューでは、Green-GOコントロールソフトウェアを使用せずにデバイスに設定をロードすることができます。

🔍 **ヒント：** 現在使用している設定は、Infoサブメニューで確認できます。

Join Config (コンフィグへの参加)

このサブメニューでは、ローカルネットワーク内のアクティブな設定をすべて一覧表示します。ただし、現在使用されているデバイスの設定は表示されません。

利用可能なConfig

任意の項目をクリックすると、確認画面が表示されます。オプションのJoinを押すと、Configがデバイスにロードされます。

📢 **お知らせ：** Configのセキュリティ設定によっては、Joinを許可する前にConfigパスワードの入力を求められる場合があります。

✦ **セットアップメニュー：** Config ▶ Join Config ▶ Config名

Default Config

このサブメニューでは、カスタムのデフォルト設定をロードすることができます。

🔍 **ヒント：** Green-GO Controlソフトウェアで [カスタム設定] (../software/views/config.md#default-config) を定義することができます。

ロード

工場出荷時の設定ファイルは、「ロード」プロパティをクリックすることにより、ロードできます。

✦ **セットアップメニュー：** 設定 ▶ 工場出荷時設定 ▶ ロード

Factory Default

この設定では、工場出荷時の設定ファイルをロードすることができる。

ロード

ロードオプションをクリックすると、工場出荷時の設定ファイルがロードされます。

✦ **セットアップメニュー：** 設定 ▶ 工場出荷時設定 ▶ ロード

DECT

DECTメニューでは、Green-GO WAAワイヤレスアンテナとのペアリングを設定および管理することができます。各無線デバイスはGreen-GO通信ネットワークに接続するためにアンテナとペアリングする必要があります。

🔍 ヒント：ワイヤレスXシステムに関するガイドでは、ワイヤレス接続の設定および管理方法について詳しく説明しています。

モード

Green-GO 5には、Xシリーズデバイスのために2つのペアリングモード、X-PoolおよびOTA (over-the-air) ペアリングを搭載しています。どちらの方式も互換性はありません。現在どちらのモードを使用しているかに応じて、このメニューのステータスが変化します。

X Pool

X-Poolのペアリング方式は、主にGreen-GOコントロールソフトウェアで設定されます。ただし、デバイスのセットアップメニューでプールの変更またはペアリングの削除は可能です。

🔍 ヒント：X-Poolの設定およびペアリングの詳細については、無線Xシステムに関するガイドをご覧ください。

利用可能なプール

デバイスのセットアップメニューからX-Poolのペアリングを開始することはできませんが、このオプションからプールの切り替えを行うことは可能です。

✦ **セットアップメニュー：** DECT ▶ モード： X-Pool ▶ プール名
↔ **オプションの範囲：** 既存のプール
🕒 **デフォルト：** なし

アンテナの削除

アクティブなペアリングは、この機能を有効にすることによって削除できます。

✦ **セットアップメニュー：** DECT ▶ モード： X-Pool ▶ アンテナの削除

over-the-air

over-the-airペアリング方式により、ソフトウェアを必要とせず、素早くアドホックペアリングが可能です。

🔍 ヒント：この方式については、「ベルトパックのペアリング方法」の章をご覧ください。

アンテナ名

このオプションは、Green-GO WAAワイヤレスアンテナのデバイス名のみを表示します。

✦ **セットアップメニュー：** DECT ▶ モード： 無線 ▶ アンテナ名

アンテナの削除

アクティブなペアリングは、この機能を有効にすることによって削除することができます。

✦ **セットアップメニュー：** DECT ▶ モード： 無線 ▶ アンテナの削除

コーデック

コーデックプロパティでは、デバイスが使用するオーディオ品質および無線帯域幅を設定することができます。

オプション	説明
Wideband (広帯域)	このモードを有効にすると、ワイヤレス接続はG.722コーデック (100 Hzから7 kHz) を使用します。このコーデックを使用するワイヤレス接続は、2つのDECTタイムスロットを使用してオーディオの質を向上させるが、ワイヤレス使用可能人数が減少します。
Narrowband (狭帯域)	このモードを有効にすると、無線接続はG.726コーデック (300 Hz – 3.4 kHz) を使用します。このコーデックを使用する無線接続は、1つのDECTタイムスロットのみを使用し、使用するDECT帯域幅は少なくなるが、オーディオの質は低下します。

✦ セットアップメニュー： DECT ▶ コーデック
 <> オプションの範囲： 広帯域、狭帯域
 ○ デフォルト： 広帯域

Information (情報)

情報メニューは、主にDECTモジュールの設定に関する情報を提供します。

Region(地域)

このオプションは、現在設定されている地域を表示する。このメニューは情報提供のみです。この設定の変更は、Green-GOコントロールソフトウェアでのみ可能です。

✦ セットアップメニュー： DECT ▶ 情報 ▶ region

ID

このオプションは、DECTモジュールの固有ID を表示します。

✦ セットアップメニュー： DECT ▶ 情報 ▶ ID

クリアRF

クリアRF機能は、DECTモジュールのリセットまたはクリアを可能にします。この機能は、使用するペアリング方式を変更する前に毎回実行する必要があります。

✦ セットアップメニュー： DECT ▶ 情報 ▶ クリアRF

Info (情報)

情報サブメニューでは、必要不可欠な設定を一度に確認することができます。オプションの中には、デバイスまたはシステムをデバッグするためのツールも用意されています。

名前

このオプションは、デバイス名を表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 名前

Config

このサブメニューには、デバイスが現在使用している設定ファイルに関する情報が表示されます。この情報は、同期がとれていないデバイスに関する問題をデバッグする際に役立ちます。

名前

このオプションは、デバイス名を表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 名前

STAMP (スタンプ)

このオプションは、現在アクティブな設定ファイルのタイムスタンプを表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 設定 ▶ スタンプ

Sample Rate (サンプルレート)

このオプションは、現在アクティブな設定ファイルによって使用されるサンプルレートを表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 設定 ▶ サンプルレート

Multicast IP (マルチキャストIP)

このオプションは、設定ファイルの現在設定されているマルチキャストIPを表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 設定 ▶ マルチキャストIP

ID

このオプションは、現在アクティブな設定ファイルの固有IDを表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 設定 ▶ ID

IP

このサブメニューでは、デバイスの現在のIPアドレスを表示し、リモートIPv4ターゲットにpingを実行し、現在のネットワーク接続を確認できます。

PING

このオプションにより、pingの対象となるIPv4ターゲットを定義することができます。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ 設定 ▶ Ping

パケット

このオプションにより、pingスクリプトを開始し、定義されたターゲットに10回連続でpingを送信することができます。また、このオプションはパケット総数カウンタとしても機能し、送信されたパケット数を表示します。

🔗 ヒント：このオプションを再度有効にすると、スクリプトが再起動します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ IP ▶ パケット

パケット統計

損失 (Lost)

pingスクリプトの最後の実行中に失われたパケット数を示すカウンターです。

平均 (Avg)

pingスクリプトの最後の実行で記録された平均応答時間です。

最短 (Min)

pingスクリプトの最後の実行で記録された最短応答時間です。

最長 (Max)

pingスクリプトの最後の実行で記録された最長応答時間です。

△ 警告：ローカルのGreen-GOネットワークでは、応答時間は1msを超えてはなりません。

ファームウェア (Firmware)

このオプションは、デバイスのファームウェアのバージョンを表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ ファームウェア

シリアル (Serial)

このオプションは、デバイスのシリアル番号を表示します。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ シリアル

Reset to Default

このサブメニューでは、機器全体または設定の一部を工場出荷時の設定に戻すことができます。

Reset Devise

このオプションは、デバイス設定を工場出荷時の設定に戻すことができます。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ デフォルトにリセット ▶ デバイスのリセット

Reset Audio

このオプションは、オーディオ設定を工場出荷時の設定に戻すことができます。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ デフォルトにリセット ▶ オーディオのリセット

Reload User

このオプションは、現在のユーザーとそのすべての設定をリロードすることができます。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ デフォルトにリセット ▶ ユーザーのリセット

Factory Reset

このオプションにより、デバイス全体を工場出荷時の状態に戻すことができます。

✦ セットアップメニュー： 情報 ▶ デフォルトにリセット ▶ Factory Reset

技術仕様

一般事項

コネクタ (Neutrik) : 1 x XLR4M, 1 x RJ45 etherCON (10/100 Mbps)

ユーザーコントロール : 4 x , 1 x , 1 x

ディスプレイ:	1 x 0.95"有機ELスクリーン (カラー)
ディスプレイの解像度:	64 x 96ピクセル、15 x 22 mm (H/W)
電源入力:	パワーオーバーイーサネット: 48 V/最大350 mA (IEEE 802.3af) USB (オプション): 5 V DC/最大1 A
電力使用量:	通常2ワット、最大2.5ワット
寸法(H/W/D):	46 x 95 x 119 mm
重量:	345g (バッテリー込み)、300g (バッテリーなし)
環境:	周囲温度: 0° から+55° C

オーディオ入力

ヘッドセットコネクタ

コネクタ (Neutrik):	XLR4M (ピン1 & 2)
タイプ:	アンバランス
バイアス電源:	最大2.5 V
増幅範囲:	+30 dBから+60 dB
ノイズ:	-70 dBuから-55 dBu
レイテンシー(有線):	ヘッドセットからヘッドセット: ~10 ms
レイテンシー(無線):	ヘッドセットからヘッドセット: ~22ms (1ワイヤレス・ホップ)

オーディオ出力

ヘッドセットコネクタ

コネクタ (Neutrik):	XLR4M (ピン3 & 4)
公称レベル:	0 dBu
最大出力:	+20 dBu
インピーダンス:	120 Ω
無線	
DECT	EU-DECT (CAT-iq V2.0、V3.0 (部分的))、DECT 6.0 (北米)、J-DECT (日本)
対応する規格:	
認証:	ETSI (EU-DECT、ETSI 300 444およびETSI 301 406に準拠) FCC (DECT 6.0) MIC (J-DECT認証済み)
周波数帯域:	1870 MHzから1930 MHz
受信感度:	<-93 dBm

トランシーバー出力： EU：23 dBm (1881から1897 MHz)
アメリカ合衆国：20 dBm (1921から1928 MHz)
日本：23 dBm (1895から1903 MHz)

バッテリー

タイプ： リチウムイオン
容量： 1800 mAh
公称電圧： 3.7 V
充電電流： 500 mA
寸法 (H/W/D)： 14 x 38 x 73 mm
重量： 45 g
環境： 保存周囲温度：0° から35°